

ひるまだより

〒190-0012 立川市曙町1-36-1 曙第3ビル2F
 TEL=042-526-3376 HP=<http://www.hiruma.or.jp/>
 E-mail=clinic-contact@hiruma.or.jp



4月						
日	月	火	水	木	金	土
休	02	03	04	休	06	07
08	休	10	11	休	13	14
休	16	17	18	休	20	21
休	休	24	25	休	27	28
休	休					

5月						
日	月	火	水	木	金	土
		01	02	休	休	休
休	07	08	09	休	11	12
13	休	15	16	休	18	19
休	21	22	23	休	25	26
27	休	29	30	休		



上は左右4番と、下は左右6番の歯が神経を抜いていたので、その歯を抜くか、6番はそのままにして5番を抜くかというふたつの方針を提示されました。治療結果予測の模型を見せていた

●**抜歯について、どのような説明がありましたか。**
 上は左右4番と、下は左右6番の歯が神経を抜いていたので、その歯を抜くか、6番はそのままにして5番を抜くかというふたつの方針を提示されました。治療結果予測の模型を見せていた

●**OPひるま歯科 矯正歯科はどのように探したのですか。**
 インターネットで探してカウンセリングを受けました。院長先生の説明がとてもいいのでわかりやすく矯正治療のメリットとデメリットについてしっかり教えてくださるところがいいなと思います、治療することに決めました。

●**ワイヤーはいかがでしたか。**
 ワイヤーをつけたときの見た目がずっと気になっていたのですが、実際につけてみると、周りの人はあまり気づかず。(笑)。最近では、矯正治療をしている芸能人の話も聞くし、以前に比べて矯正治療が一般的になってきたこともあるのでしょね。周りからの視線が気になることもなく、良い時期に始められて良かったと思います。

●**治療が終わって状態はいかがですか。**
 口が自然に閉じられるようになって、口元の印象がすごく変わったと思います。治療前はいつもきちんと噛めていない感じがしていたのですが、治療後は上下の奥歯がしっかり噛み合っていることが感じられるようになりました。体調の面でも頭痛や顎の痛みはほとんどなくなり改善されました。

●**矯正治療を受けようと思ったきっかけを教えてください。**
 小学生の時から歯並びが悪い状態でした。20代後半くらいになって、頭痛や肩こりなど慢性的に不調が出始めたのに加え、顎がガクガクして痛くなるなどの症状も気になり始め、これまでのばしのばしにしていた矯正治療としっかり向き合おうと決心しました。

●**矯正治療を受けようと思ったきっかけを教えてください。**
 小学生の時から歯並びが悪い状態でした。20代後半くらいになって、頭痛や肩こりなど慢性的に不調が出始めたのに加え、顎がガクガクして痛くなるなどの症状も気になり始め、これまでのばしのばしにしていた矯正治療としっかり向き合おうと決心しました。

●**矯正治療を受けようと思ったきっかけを教えてください。**
 小学生の時から歯並びが悪い状態でした。20代後半くらいになって、頭痛や肩こりなど慢性的に不調が出始めたのに加え、顎がガクガクして痛くなるなどの症状も気になり始め、これまでのばしのばしにしていた矯正治療としっかり向き合おうと決心しました。

患者さんインタビュー44 ーさん
**上下の奥歯がしっかり噛み合い
 口が自然に閉じられるようになりました**
 インタビューの内容をダイジェスト版でお届けします。全文はホームページに掲載しています。



OP ひるま歯科 矯正歯科
 院長 晝間康明

1さんの症状について解説します

大臼歯の失活歯を伴う成人の叢生・上顎前突症例
 初診時の診断：上突咬合 叢生歯列弓 下後退顎

初診時



治療方針1 治療終了時の予測模型



治療方針2 治療終了時の予測模型



動的治療終了時



1さんは上下顎前歯の前後的なズレを現すオーバージェットが大きく約9.5mm、前歯部の叢生を認めました。一般歯科の問題点として、下顎右側6番の歯髄を除去し樹脂をつめる根管治療が施された失活歯の状態でした。デンタルX線写真では根管治療は不十分であるものの明らかな根尖病巣などは認めませんでした。

治療の方針としては抜歯により空隙を作る必要がある症例と判断し、抜歯部位は2方針を提案しました。

▶方針1：抜歯部位は上顎左右4番、下顎左右5番。動的治療期間は30ヵ月と予測。

▶方針2：抜歯部位は上顎左右4番、下顎は右側を失活歯である6番、左側は5番。動的治療期間は42ヵ月と予測。

非対称な抜歯部位となることで咬合がやや不安定になることを予測模型により説明し、失活歯の将来の喪失リスクを説明した結果、1さんは方針1を選択されました。

治療結果は、上下顎前歯の前後的なズレおよび叢生は改善され、臼歯関係もアングルⅠ級で安定しました。保存した下顎右側6番は現在まで症状が出ていませんのでこの診断は適切だったと考えられますが、本当の評価は生涯にわたり歯が残せるかどうかでしかできないので、今後もメンテナンスで守りながら経過観察を続けます。